

担い手育成特定資産事業 活用事例紹介 中川 幸子さん(遠野市)

取材担当 中部農業改良普及センター 遠野普及サブセンター 峠館大介

遠野市で令和5年に就農し、水稲 6.5a の他、さつま芋や落花生、オクラなど十数品目の野菜を作付けし、市内で食堂経営を目指している中川幸子さんを紹介します。

中川さんは就農前、県外で食堂を営んでいました。食堂をやりながら、自分で育てたお米や野菜を提供したいという気持ちがありましたが、農業経験はまったくなかったことから、令和4年に県外の自然栽培農家において約1年間研修しています。県外での研修終了後、気になっていた遠野市でご縁があり、翌年令和5年から市内の自然栽培の水稲農家で研修を開始しました。農家における研修に加え、令和5年度担い手育成特定資産事業「新規就農者等技術研修事業」を活用し、岩手県立農業大学校で経営、野菜に関する基礎研修を受講、経験を補完するため意欲的に活動しています。

研修後は、自然栽培で少量多品目の野菜、米を販売し、いつかは食堂も開きたいと考えており、幸運にも自分が思い描いていた食堂を開けそうな物件と出会うこともできました。現在は野菜類の栽培と少しずつですが食堂の開店に向け改装等を手掛けています。「日本のふるさと遠野」で中川さんは、着実に自身の将来の夢に向かって歩みを進めています。



収穫した落花生



自然栽培の野菜畑で色々試しています！